

浅川扇状地遺跡群

O S H I K A N E

押 鐘 遺 跡 (2)

—愛の家グループホーム長野吉田新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2014・3

長野市教育委員会

序

埋蔵文化財は郷土の成り立ちと文化を理解するうえで欠くことのできない貴重な遺産です。肥沃な善光寺平の中央部に位置する長野市においては、その歴史の積み重ねを物語るように、現時点で1,000箇所を超える数多くの遺跡が周知されています。これらの地中に埋もれている貴重な歴史、埋蔵文化財は国民共有の財産であり、さまざまな開発行為により失われてしまうことに対し、私たちはその保護と保存および公開という大きな責務を負っています。現状保存が困難な遺跡については、記録保存という形で後世に伝えていくために、発掘調査が不可欠となります。

このたび、福祉施設建設に伴い押鐘遺跡の発掘調査を実施しました。小規模な調査ながら、貴重な遺構や遺物を発見することができました。ここに長野市の埋蔵文化財第136集として刊行いたします本書は、その成果をまとめたものです。この報告書が文化財に対する一層のご理解と、地域史解明の一助としてお役立ていただければ、まことに幸いに存じます。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力を賜りました事業関係者各位及び、発掘作業に際して多大なご尽力をいただきました地元の皆様方、また報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました各位に厚く御礼申し上げます。

平成26年 3月

長野市教育委員会
教育長 堀内 征治

例 言

- 1 本書は、愛の家グループホーム長野吉田新築工事を起因とし、記録保存を目的として実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査事業は、委託者 伝田孝吉 と受託者 長野市長 鷺沢正一(～平成25年11月10日)及び長野市長 加藤久雄(平成25年11月11日～)との埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、長野市教育委員会(長野市埋蔵文化財センター担当)が実施した。
- 3 調査地は、長野市吉田2丁目238-1の一部である。開発事業の敷地面積は948.99㎡、建築面積は303.44㎡、うち100㎡を発掘調査の実施対象範囲とした。調査期間は平成25年7月31日から8月12日である。
- 4 現場における調査は小林が担当し、主に遠藤がこれを補助した。本書の編集・執筆は小林が担当し、調査員が分担してこれを補助した。
- 5 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡略記号は「AOKⅡ」とし出土遺物の注記に表記してある。

凡 例

- 1 本書では遺構の略記号を以下のとおりとしている。
SB…竪穴住居跡、SK…土坑、SP…小穴、Tr…トレンチ、Gr…グリッド
- 2 遺構の測量は株式会社写真測図研究所に委託し、コーディックシステムにより1:20の縮尺で基本原図を作成した。図中で示す方位はすべて座標北、座標は平面直角座標系の第Ⅷ系座標値(日本測地系2000)に基づく。遺構実測図の基本縮尺は1/40、異なる縮尺を用いる場合は明示してある。
- 3 本書に掲載した遺物番号はすべて連番とし、本文および挿図・図版の番号は一致する。
- 4 遺物は原寸にて実測図を作成し、遺物実測図の基本縮尺は1/3である。
- 5 遺構実測図および遺物実測図において、焼土等の範囲や土器の種類、黒色処理等の区別はトーンによって下記のとおり表記した。

 … 焼土の範囲  … 内黒処理  … 須恵器  … 灰釉陶器

目 次

序文・例言・凡例・目次

I	調査の経過	1
1	調査の事務経過	1
2	調査の体制	1
3	調査日誌抄	2
II	調査地周辺の環境	2
III	調査の成果	4
1	概要および基本層序	4
2	遺構と遺物	5
IV	小 結	8

図 版

報告書抄録・奥付



重機表土掘削

I 調査の経過

1 調査の事務経過

平成25年6月14日に大和ハウス工業(株)長野支店より事業地の照会があり、老人介護施設である愛の家グループホーム長野吉田の建設工事計画が明らかとなった。事業地の隣地において平成2年に発掘調査が行われている(「長野市の埋蔵文化財第41集 押鐘遺跡」)ことから、保護措置を講ずる必要がある旨を回答した。協議の結果、建物基礎部分が埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲について本発掘調査を実施することとなった。7月10日付けで傳田孝吉より文化財保護法93条第1項の規定に基づく「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」の提出があり、7月17日付けで市教委教育長より「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」(25埋第2-47号)によって発掘調査の指示が出された。7月22日付けで傳田孝吉より発掘調査依頼書および土地所有者の承諾書が提出され、受理する。7月29日付けで委託者傳田孝吉と受託者長野市長鷺沢正一とで「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結し、7月31日より8月12日まで発掘調査を実施した。実質調査日数は8日間である。10月28日付けで県教委教育長・委託者傳田孝吉宛に「発掘調査終了について(通知)」、長野中央警察署長宛に「埋蔵文化財の発見について(通知)」を提出する。平成26年3月26日付けで「埋蔵文化財発掘調査変更委託契約書」を締結し、3月31日付けで傳田孝吉宛に「埋蔵文化財発掘調査委託業務実績報告書」を提出する。同日『浅川扇状地遺跡群 押鐘遺跡(2)』を刊行する。

2 調査の体制

調査主体者	長野市教育委員会教育長	堀内征治			
調査機関	文化財課	課長	青木和明		
	埋蔵文化財センター	所長	小山敏夫		
	庶務担当	係長	河口英明		
		職員	大竹千春		
	調査担当	係長	飯島哲也	専門員	柳生俊樹(調査員)
		主査	小林和子(調査員)	専門員	高田亜紀子
		主事	塚原秀之	専門員	平林大樹(調査員)
				専門員	田中暁穂(遺物撮影)
				専門員	遠藤恵実子(調査員)
				専門員	日下恵一
				専門員	篠井ちひろ
発掘作業員	江守久仁子・岡沢貴子・杉本千代・諏訪里子・古澤栄・宮下稔・森はる美				
整理調査員	青木善子・鳥羽徳子・中殿章子・武藤信子・矢口栄子				
整理作業員	清水さゆり・関崎文子・西尾千枝・待井かおる・三好明子				
遺構測量業務委託	株式会社写真測図研究所				

3 調査日誌抄

- 7月31日 重機により遺構面まで表土除去作業。
- 8月1日 午前中雨天により現場作業休止。重機により遺構面まで表土除去作業。
- 8月2日 遺構検出作業。雨天により午後現場作業休止。
- 8月5日 全体写真撮影。重機により遺構面まで表土除去作業。
- 8月6日 雨天により現場作業休止。
- 8月7日 SB1、SB2、SB3、SK1の掘り下げ。
- 8月8日 SB1、SB2、SB3、SK1の掘り下げ。調査区東側にグリットを設定、掘り下げ。
- 8月9日 掘り下げ作業完了。写真撮影。測量。撤収作業。
- 8月12日 測量図結線。現場作業終了、撤収。

II 調査地周辺の環境

飯綱山を水源とする浅川は山間部を侵食流下した後、浅川東条地籍の通称「浅川原口」を谷口として盆地に流入し、東南方向を主軸とした平均斜度1/45を計測する典型的な扇状地を形成する。この浅川の堆積作用によって形成された中規模扇状地は、「浅川原口」を扇頂に、南は城東町・西和田で裾花川扇状地と、扇端は金箱・富竹付近で千曲川氾濫原の後背湿地と接する。この浅川扇状地上には、各時代の集落遺跡が数多く分布しており、市内有数の規模を誇る「浅川扇状地遺跡群」として把握されている。

押鐘遺跡は浅川扇状地扇央付近に立地し、浅川扇状地遺跡群の周知の範囲内に位置する。調査地の北側約200mを浅川が南東方向へ流れる。周辺地形を概観すると、北西から南東方向へ傾斜が認められる。標高は現況で404mから403mを測る。遺跡周辺は水田や桑畑として地目利用されていたが、近年、長野市北部を東西に貫通する都市計画道路北部幹線の開通や「長野市檀田土地区画整理事業」など大規模な造成工事により、商業地化・住宅化が著しい。

今回の調査区隣地においては、平成2年度に宅地造成事業を起因として、約330㎡の発掘調査が行われている。調査の結果、弥生時代後期後半箱清水期とみられる土坑1基、平安時代の竪穴住居跡1軒、溝跡・土坑等が検出された。出土遺物の様相から、弥生時代後期～中世にわたる集落跡の一部であると考えられる。押鐘遺跡の北東約200mの地点には浅川端遺跡があり、特に弥生時代後期～平安時代にかけては浅川端遺跡との関連が想定される。浅川右岸に広く展開する比較的大規模な集落の南限に位置づけられる可能性が高い。また、押鐘遺跡南東約50mには盛伝寺居館跡が存在する。盛伝寺は天正年間に多田氏の居館跡に寺を建てたものと伝えられる。平成2年度調査では青磁碗破片が検出されており、これとの関連が想定される。

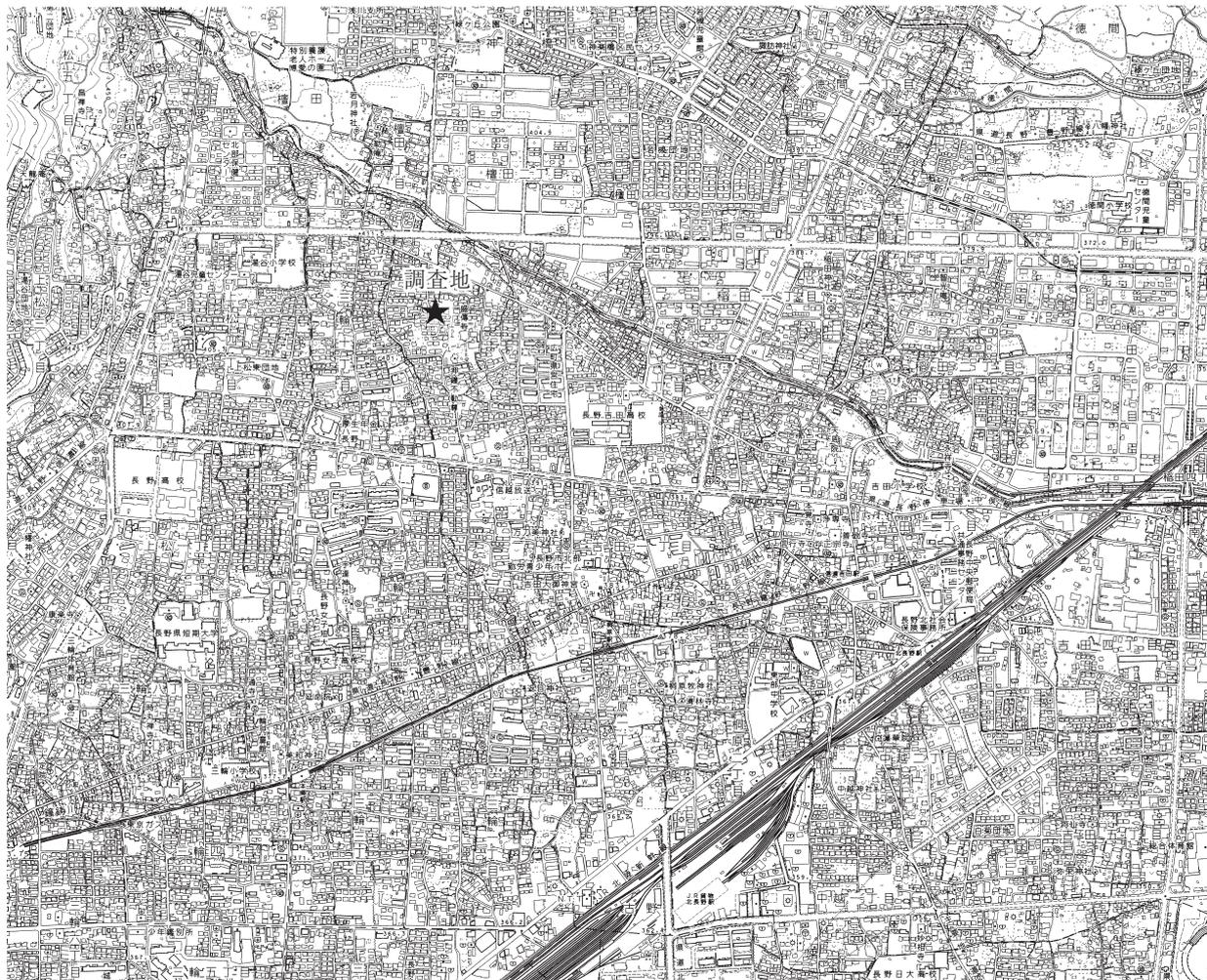


図1 調査地位置図 (1/20000)

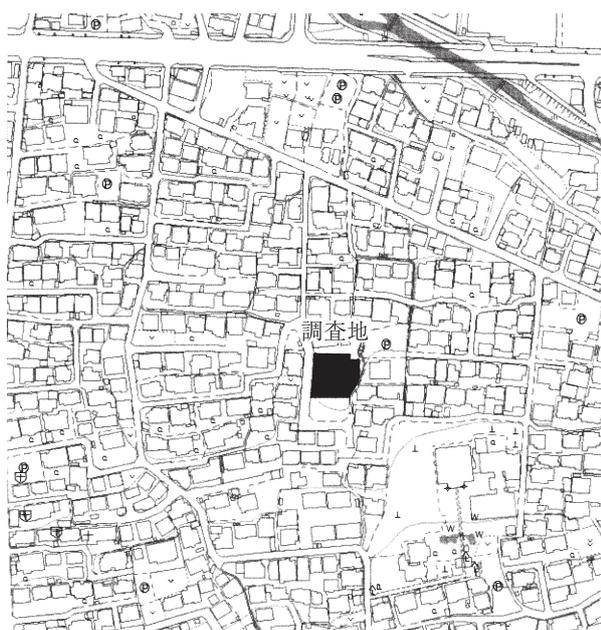


図2 調査区位置図 (1/5000)

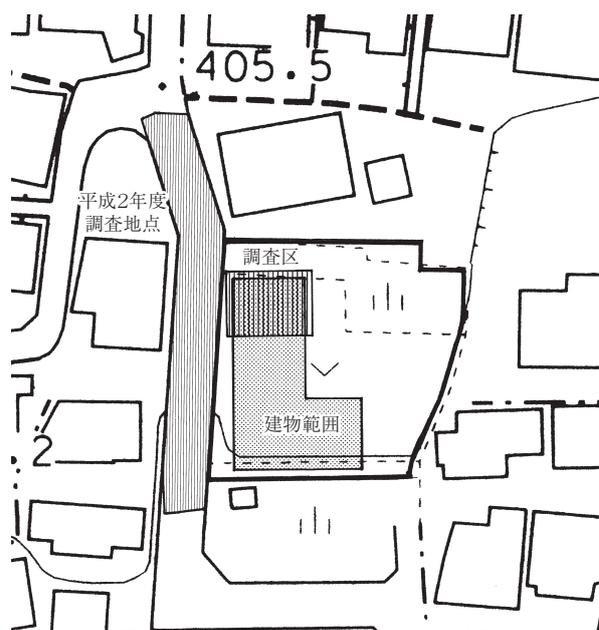
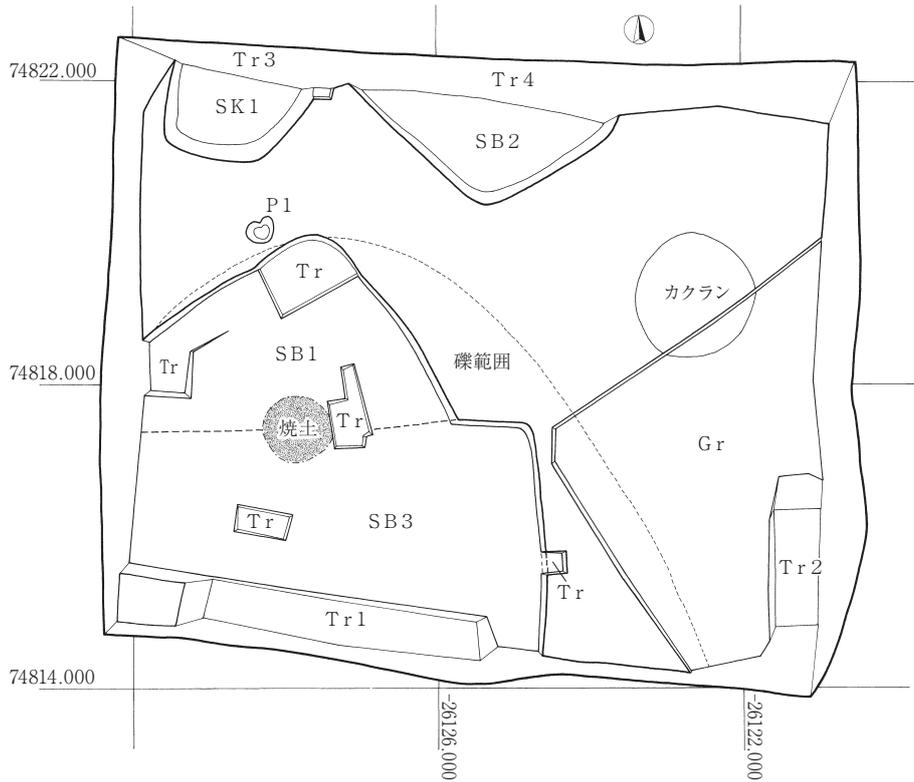
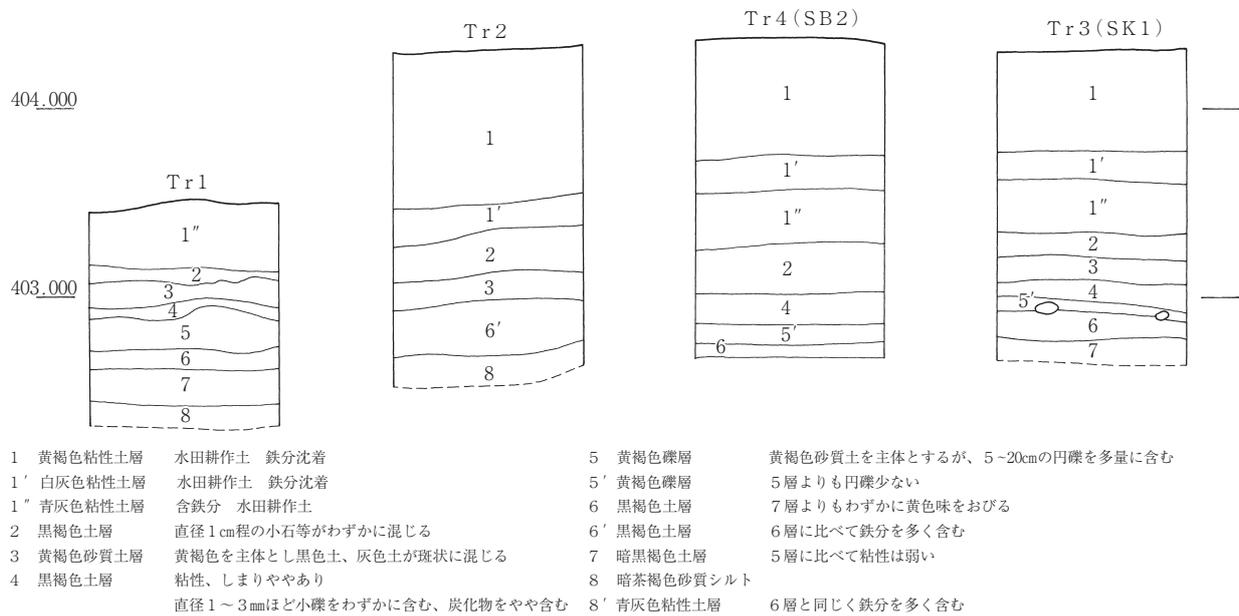


図3 押鐘遺跡調査地点位置図 (1/1000)



第4図 遺構分布図 (1/100)



第5図 土層柱状図 (1/40)

Ⅲ 調査の成果

1 概要および基本層序

調査区は、開発事業である愛の家グループホーム長野吉田の建物部分のうち、基礎によって遺跡に影響がおよ

ぶ範囲100㎡について設定した。平成2年度に調査を行った押鐘遺跡調査区の東側に隣接する。限られた範囲ではあるが、住居跡3軒および土坑1基が検出された。しかし、いずれも部分的な検出にとどまった。

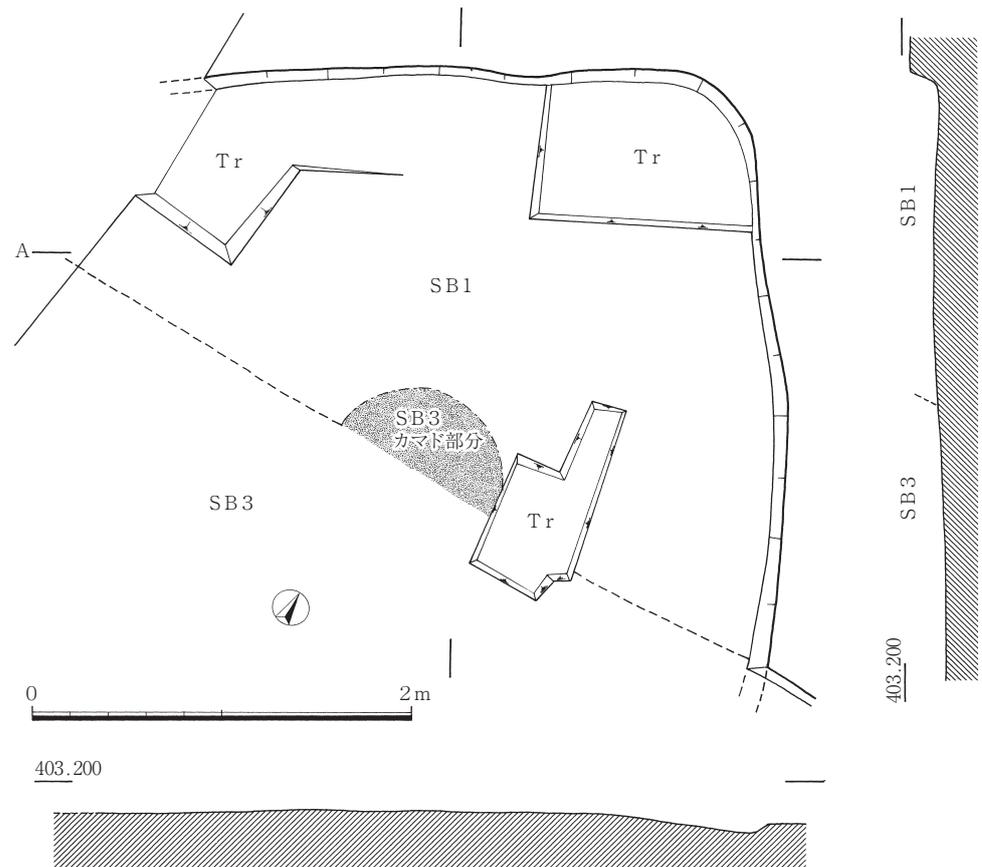
調査区内に4箇所のトレンチを設定し、層序の確認をおこなった。1層、1'層は水田耕作土。1''層も水田耕作土であるが、平安時代遺物包含層である。2層上面が平安時代遺構検出面となる。4層は小礫、炭化物を含み、弥生時代遺物包含層である。トレンチ2ではこの層は確認されていない。5層上面が弥生時代遺構検出面となる。5層では円礫が多量に含まれていることが確認された。遺構分布図に示したとおり、調査区の南西部分に礫層が広がるものと考えられる。

2 遺構と遺物

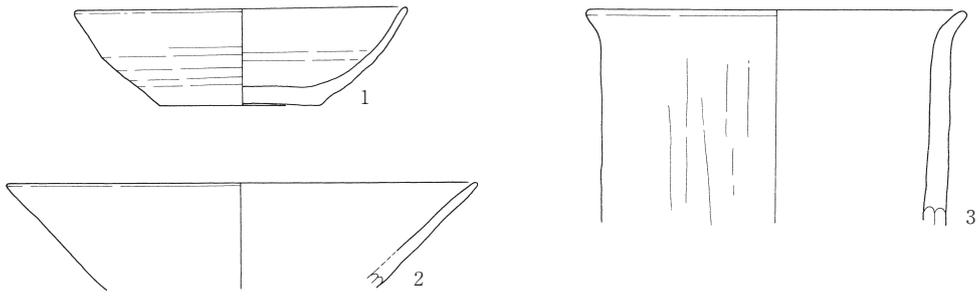
SB1

調査区の南西部より検出され、SB3と切りあい関係にあり、SB3より新しいと考えられる。角丸方形を呈し、検出面から床面までの深さはおよそ12cmを測る。床面の確認のため住居内にトレンチを設定した。礫層の直上が床面であることが確認された。一辺は2.6mと3.0mを測るが西は調査区外となっており、南はSB3との切りあいのため詳細は不明である。柱穴およびカマド等の施設は検出されなかった。

図化し得た遺物は土師器の坏（1・2）2点と甕（3）1点である。2は高坏の可能性も考えられる。本住居跡の年代は平安時代に位置づけられる。



第6図 1号住居跡実測図 (1/40)

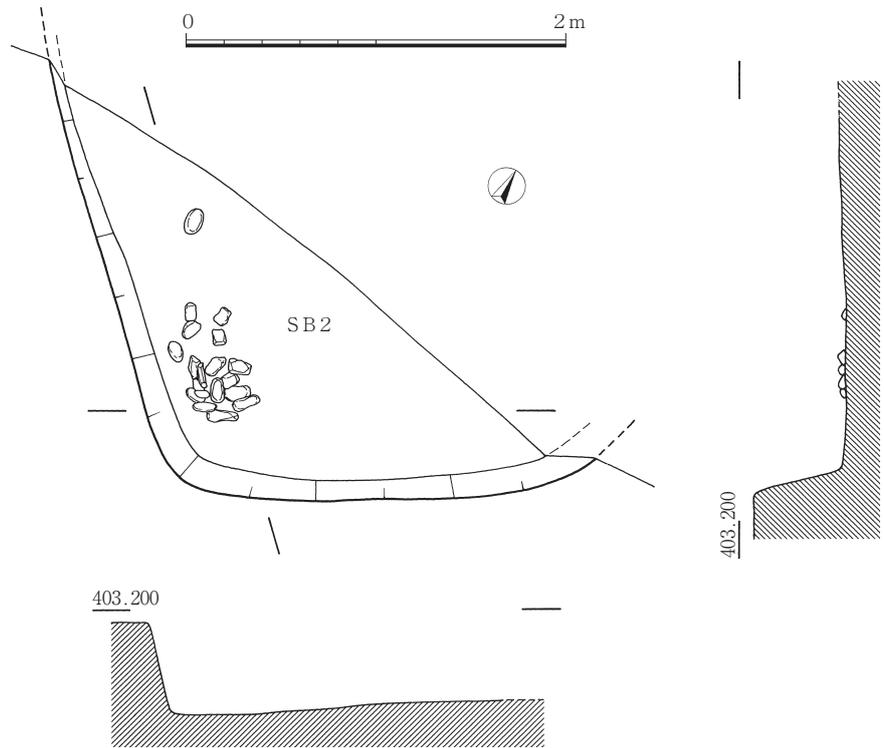


第7図 1号住居跡出土遺物実測図(1/3)

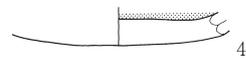
SB2

調査区の北壁より一部のみが検出された。角丸方形を呈し、検出面から床面までの深さはおよそ48cmを測る。一辺は2.1mと2.4mを測るが半分以上が調査区外となり、詳細は不明である。柱穴およびカマド等の施設は確認されなかったが、床面からは集石が検出された。細長い、流線形の自然石が十数個残されており、こも編み石と推察される。

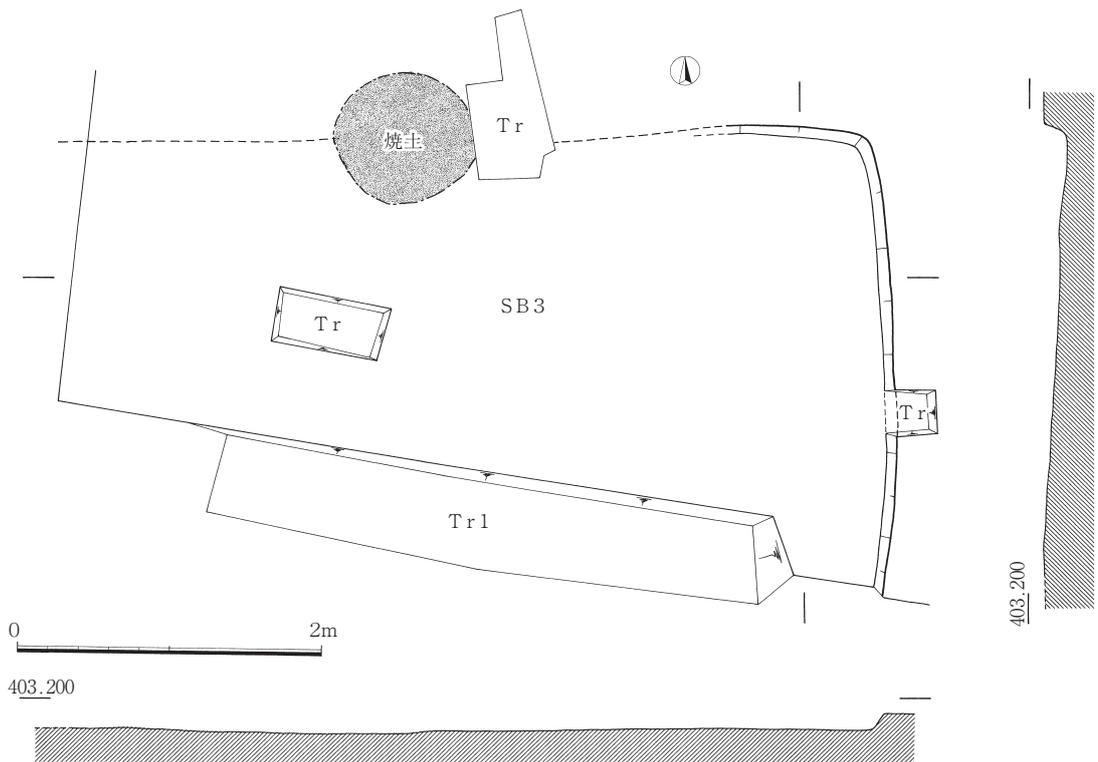
図化し得た遺物は内黒の土師器(4)1点のみである。本住居跡の年代は平安時代に位置づけられる。



第8図 2号住居跡実測図(1/40)



第9図 2号住居跡出土遺物実測図(1/3)

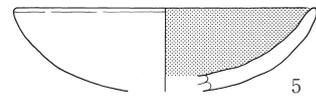


第10図 3号住居跡実測図 (1/50)

SB3

調査区の南西より検出され、SB1と切りあい関係にある。SB1よりも古いと考えられる。角丸方形を呈し、検出面から床面までの深さはおよそ10cmを測る。南北方向の一边はおよそ3.0mを測る

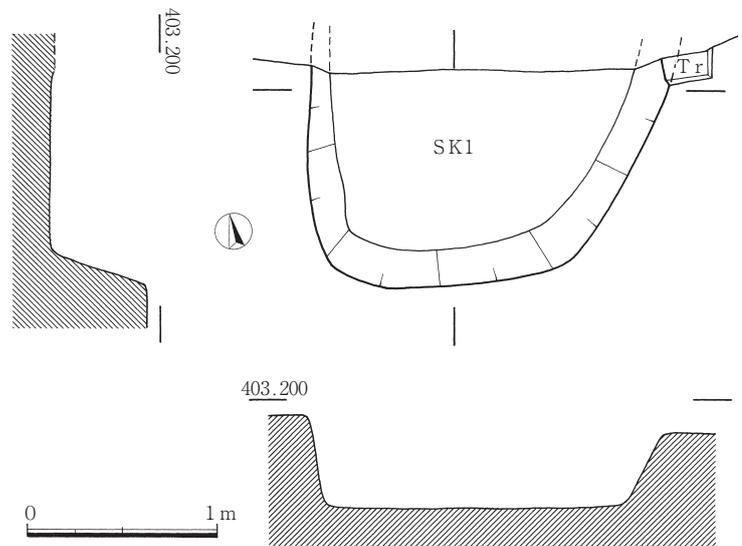
が、さらに調査区外へ広がると考えられる。東西方向の一边はSB3との切りあいで詳細は不明である。北壁中央と思しき個所に焼土が残り、土器片が多量に検出された。カマド跡と考えられる。図化し得た遺物は内黒の土師器(5)1点のみである。本住居跡の年代は平安時代に位置づけられる。



第11図 3号住居跡出土遺物実測図 (1/3)

SK1

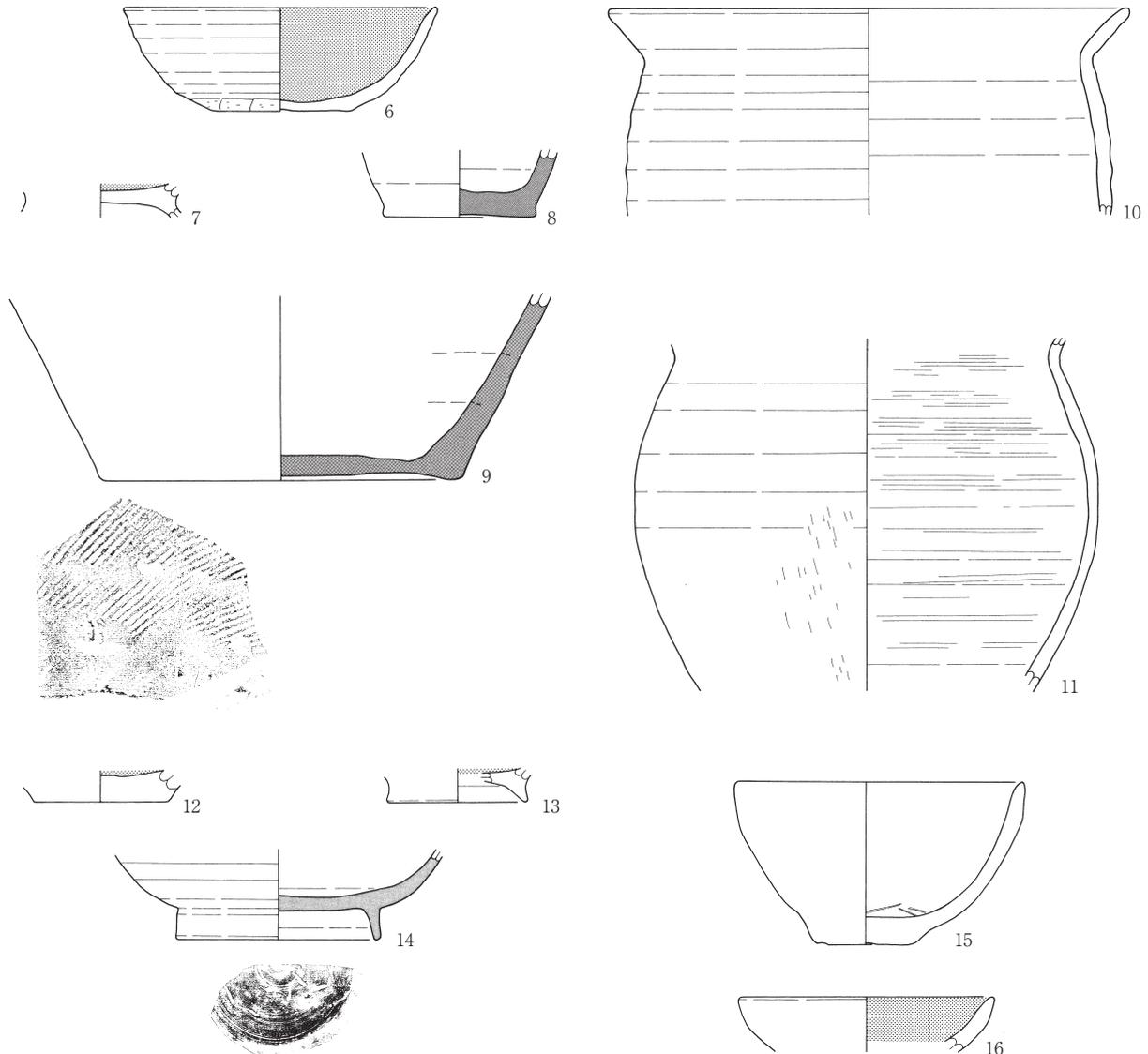
調査区の北西角で一部が検出された。検出面から床面までの深さはおよそ48cmを測る。東西は1.8m、南北は1.1mを測るが、北側は調査区外となるため、詳細は不明である。図化できる遺物は検出されなかったが、年代は平安時代と考えられる。なお、SK1内にTr3を設定し掘り下げたところ、弥生時代後期の土器片が検出された。



第12図 1号土坑跡実測図 (1/40)

遺構外遺物

遺構は伴わないが、調査中に検出された遺物およびグリッド内出土遺物を図示した。包含層上面からは内黒の坏（6・7）、須恵器（8・7）、土師器甕（10・11）が出土した。検出面では内黒の土師器の底部（12・13）および灰釉陶器（14）が出土した。グリッド内からは土師器の椀（15）および内黒の坏（16）が出土した。平安～中世の所産と考えられる。



第13図 遺構外出土遺物実測図（1 / 3）

IV 小 結

当該地は平成2年度に調査を行った押鐘遺跡（長野市の埋蔵文化財第41集）の東側に隣接する。調査面積が100㎡と限られたなかでいずれも部分的ではあるが住居跡3軒および土坑1基が検出された。今回の調査では、トレンチ調査により、平安時代遺構の下に弥生時代の遺物包含層の存在が確認された。弥生時代の遺構面については、開発事業において建物基礎の影響が及ばない深さにあると判断されることから、現状保存とし、今回調査は行われなかった。最後に、調査の実施にあたり事業主体者の傳田孝吉氏には埋蔵文化財の保護について多分な御理解、御協力を頂いた。末筆ではあるが深甚なる感謝をささげ調査の総括としたい。

SB 1



SB 2



SB 3



包含層 (上面)



検出面



Gr





調査区全景（南から）



調査区全景（東から）



SB1



SB2



SB3



SK1 (Tr 3)



作業風景



発掘調査参加者

報 告 書 抄 録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐん おしかねいせき						
書名	浅川扇状地遺跡群 押鐘遺跡						
副書名	愛の家グループホーム長野吉田新築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第136集						
編著者名	小林和子						
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	2014(平成26)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度 (世界測地系)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
おしかねいせきに 押鐘遺跡(2)	ながのけんながのしよしだ 長野県長野市吉田 にちょうめ 2丁目238-1の一部	20201	A-085	北緯 36° 67' 40" 東経 138° 20' 77"	20130731) 20130812	100㎡	老人福祉 施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
押鐘遺跡	集落	平安時代	堅穴住居跡 3軒 土坑 1基 小穴など		土師器、須恵器 灰釉陶器		

長野市の埋蔵文化財第136集	
浅川扇状地遺跡群	
押 鐘 遺 跡 (2)	
平成26年 3月31日 発行	
編集・発行	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター
印刷	ほおずき書籍株式会社